

8月号 病害虫防除

<果樹類共通 果樹カメムシ類>

佐賀県農業技術防除センターから発表された令和3年6月30日付け病害虫発生予察情報第3号によると、予察灯およびフェロモントラップでのカメムシの誘殺虫数はやや少～平年並で推移しています。ただし、カメムシ類の発生量は地域によって異なるため、園内に見回ってカメムシの飛来や加害が確認された場合は薬剤による防除を行ってください。

また、ヒノキやスギなどの毬果はカメムシ類の餌となるので、防風樹として使用している園では毬果が結実している部分は早急に刈り込んで除去して下さい。

<露地カンキツ>

○褐色腐敗病対策、黒点病対策

8月以降は褐色腐敗病が発生するため特にこれまで発生がみられた園では注意してください。本病は土壤中に生息する病原菌が雨適等によって跳ね上がり、果実に付着することで感染・発病します。そのため、マルチを設置して土壤中からの菌の跳ね返りを防止することや、下垂枝の枝吊りを行って地表面から離すことで果実への感染を減らすことができます。発病した果実は伝染源となるため、早急に除去して園外で適切に処分してください。そのままにしておくと発生が拡大していきます。

防除は黒点病の防除も兼ねてマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）を散布します（※両薬剤とも、温州ミカンは400～600倍・収穫30日前まで、その他カンキツ類では600倍・収穫90日前までで、使用回数は4回以内）。かけムラがないよう丁寧に散布しましょう。また、アピオンEを加用すると耐雨性が向上しますので、ぜひ活用しましょう。

○かいよう病

本病は台風等の強風雨により発病が助長されます。台風等の襲来が予想される場合は、襲来7日前～前日までにコサイド3000 2,000倍（クレフノン200倍加用）等の銅水和剤を散布します。特に前年かいよう病が多発した園や、かいよう病に弱い品種（レモン、いよかん、はるみ等の中晩柑）、高糖系温州が植栽された園、幼木園、高接園、風当たりが強い園、隔年交互結実栽培の遊休年の園等では、防除を徹底してください。

なお、ボルドー剤は高温時に使用すると薬害(スターメラノーズ)が発生する恐れがあるため、使用は避けましょう。

ミカンハモグリガによる被害痕は病原菌の侵入口となるため、本病の感染を著しく助長します。そのため、新梢伸長～硬化期に防除を行い、被害葉はできるだけ取り除きます。

○害虫対策

8月はミカンハダニやチャノキイロアザミウマ、ミカンサビダニ等複数の害虫の防除が必

要となります。表を参考に対象とする害虫に効果のある薬剤を、かけムラがないよう丁寧に散布してください。ミカンハダニを防除する際は低密度時の散布を心がけ、抵抗性の発達を防止するために同じ系統の薬剤の使用は年 1 回のみとし、昨年使用した系統の薬剤は使用しないで下さい。

表 露地カンキツの害虫対策に使用する薬剤の例

対象害虫		薬剤	希釈倍数
チャノキイロアザミ ウマ	+ミカンサビダニ	コテツフロアブル	4,000 倍
		マッチ乳剤	3,000 倍
		ハチハチフロアブ	2,000 倍
	+カイガラムシ	モスピランSL液剤	2,000 倍
		ダントツ水溶剤	2,000 倍
	+カメムシ類	アルバリン/スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍
テルスター水和剤		1,000 倍	
ミカンハダニ	+ミカンサビダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000 倍
		ダブルフェースフロアブル	2,000 倍
		メビウスフロアブル	2,000 倍
ミカンハダニのみ		コロマイト水和剤	2,000 倍
		カネマイトフロアブル	1,000 倍
		スターマイトフロアブル	2,000 倍
		ダニコングフロアブル	2,000 倍

<施設不知火>

○汚れ果症対策

対策として、マンゼブ水和剤の散布が効果的です。露地栽培の黒点病対策と同様に、マンゼブ水和剤を前回散布後から累積降雨量250mmまたは薬剤散布1か月後を目安に再散布しましょう。散布の際は、かけムラがないよう丁寧に散布してください。

また、本病は高湿度条件で発生が多くなります。特にハウス内の湿度が高く結露が長時間にわたって続くような園では、防除を行っても十分な効果が出ません。換気などの湿度対策を十分にを行い、果実が結露しないように努めてください。

<ナシ>

○黒星病対策、炭そ病対策

黒星病と炭そ病に対する防除が必要な時期です。

‘幸水’と‘豊水’などが混植された園では、‘幸水’が果実に薬液による汚れが残りやすいことや収穫前日数に留意して、収穫14日前～前日まではアミスター10フロアブル 1,000倍

(収穫前日まで) やストロビードライフロアブル3,000倍(収穫前日まで)を散布します。

‘幸水’が混植されていない園では、収穫14日前まではオキシラン水和剤500倍、オーソサイド水和剤80～800倍等を散布し、それ以降は果実の汚れに配慮してアミスター10フロアブル1,000倍を散布してください。

‘幸水’のみの園では、収穫後にデランフロアブル1,000倍(収穫60日前まで)、キノンドーフロアブル1,000倍(収穫3日前まで)を散布します。その際、周囲に収穫が終わっていない園があれば、薬液が飛散しないよう十分に注意してください。

○ナシヒメシクイ対策、ハマキムシ類対策

両害虫対策として、収穫まで7～10日間隔で殺虫剤を散布します。テルスター水和剤1,000倍(収穫前日まで、ただし‘幸水’は汚れに注意)、スカウトフロアブル2,000倍(収穫前日まで)、アグロスリン水和剤1,000～2,000倍(収穫前日まで、ただし‘幸水’は汚れに注意)等の合成ピレスロイド剤を散布しましょう。アルバリン(スタークル)顆粒水溶剤やモスピラン水溶剤などのネオニコチノイド系剤は、ナシヒメシクイには効果がありますが、ハマキムシ類に対しては効果が劣りますので使用する際は注意して下さい。

○ハダニ類

ハダニ類の発生がみられる園では、コロマイト水和剤2,000倍、カネマイトフロアブル1,000倍等を散布します。発生初期の防除が最も効果的なので、収穫後でもこまめに園内の発生状況を観察し、発生が認められたら早急に防除を行ってください。

○フタモンマダラメイガ対策

8～9月にフェニックスフロアブル4,000倍を主幹、主枝に対して十分量散布します。その際、スピードプレイヤーでは主幹・主枝への付着が劣るため、できる限り手散布で対応してください。

<ブドウ>

○べと病対策、褐斑病対策

本病は一度発生すると抑制するのは困難となるため、発生前からの防除が重要です。薬剤はボルドー液(ICボルドー48Q、66D)50倍を使用します。展着剤のアビオンE1,000倍を加用すると防除効果が向上するので、是非加用してください。なお、散布間隔は20日以上空けないようにします。

<モモ>

○コスカシバ対策

8月上旬から9月上旬にかけて、コスカシバ若齢幼虫の幹への侵入が多くなる時期です。ガッ

トサイドS 1.5倍を葉にかからないよう注意して幹部及び主枝に塗布しましょう。

<カキ>

○炭そ病対策

8月中下旬頃から果実に炭そ病が感染しやすくなります。ジマンダイセン水和剤 500倍やエムダイファー水和剤 500倍（いずれも収穫45日前まで）等を散布して果実への感染を防ぎましょう。また、散布後は累積降雨量150~200mmまたは20日経過を目安に再散布を行います。散布の際は樹の上部までたっぷり散布してください。

軟弱徒長した夏枝は炭そ病に罹病しやすく、罹病した枝は果実への伝染源となります。不要な徒長枝は必ず剪除しましょう。

○うどんこ病対策

本病は早期落葉の原因となります。発生が認められたら、ストロビードライフロアブル 3,000倍（収穫14日前まで）やトリフミン水和剤 2,000倍（収穫前日まで）等を散布してください。